

国立大学法人
宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

UU ユー・ユー・ナウ now



特集

石田朋靖 新学長インタビュー

「日本で一番、学生を大切に思う大学でありたい」

進村武男 前学長インタビュー「学長在任期間を振り返って」

「宇大」によろこそ！ 新入生歓迎メッセージ

【宇大生は今！ Special ver.】

CONTENTS

- 8 OB. OG. INTERVIEW
- 10 Welcome to 授業
- 11 Welcome to 研究室&ゼミ
- 12 研究keyword
- 14 UU News
- 15 INFORMATION

特集 石田朋靖 新学長インタビュー

「日本で一番、学生を大切に思う
大学でありたい」



石田朋靖 新学長：1978年東京大学農学部農業工学科卒。84年同大学院農学系研究科農業工学専攻課程博士課程修了（農学博士）。山形大学助教授を経て1992年本学助教授、2000年本学教授、08年農学部長、09年理事・副学長、15年4月第20代学長に就任。専門は農業環境工学

宇 都宮大学の学長に石田朋靖・前副学長が就任しました。

「新学長って、どんな人？
宇大がどう変わるのかな？」
本誌企画広報課学生スタッフ
フたちが石田新学長を囲んで
その思いを聞きました。

まず、先生のプロフィールを聞かせてください

私が生まれたのは、群馬県鬼石町（現群馬県藤岡市に合併）という埼玉県との県境の小さな町で、鉄道も塾もなかった田舎です。里山に囲まれ、野いちごやカブトムシを採り、川原で焼き火をして捕った魚を焼いて食べる、そんなことばかりして育ちました。

高校から親元を離れ、ひとり暮らしを始めたので、とても自由な高校生活を送っていました。その頃に強い影響を受けたものの一つが映画「アラビアのロレンス」。砂漠のシートの美しさに

圧倒されました。もう一つは、砂漠で生きる人々を描いた『アラビヤ遊牧民』（本多勝一著）というルポルタージュで、自分たちとは全く価値観が違う文化に驚き、砂漠にロマンを感じていました。

どんな学生生活でしたか？

私が入学した東京大学理科 類は2年生から3年生になるときに自分の専門を決めるので、それまでにゆっくり自分の将来を考えたいと思っていました。普通は2年間の教養学部で3年間通い、教養を深めたんですよ（？）。特に2年目は全く大学に行かず、アルバイトでお金を貯めては旅して回り、1週間に新書や文庫本を2冊以上読むことを自分に課して、ありとあらゆる本を乱読しました。また仲の良い友人と（残念、男性です！）2LDKのア



築田 恵 教育学部4年

パートをルームシェアしていたので、週に2〜3日は似たような友人たちが集まってきて、明け方までおしゃべりや議論を楽しんでいました。そうしたムダともいえる時間の中で、「自分って何者か」というものが、少しずつわかってきたと思いますし、今の自分の人間的な基礎をつくったんじゃないかと感じています。

なぜ大学の教員を志し、どんな研究をしてきたのですか？

私が専門とする分野では研究所が少

鬼塚希美子 農学部4年



手塚祐奈 教育学部4年

なく、研究を続けることイコール大学教員という感じでした。それから、人と接することが好きな性格で、特に学生と接して欲しいという部分が多く強かったので、何の迷いもなく大学教員を選びました。

大学院を出て、山形大学農学部の助手の仕事に就きました。上司は非常に懐深い先生で、「石田君、夢を追いかけ



松山大介 工学部3年

て好きなことをやって下さい。そのために、いろいろ経験を積んできてください。研究室のための仕事は2割くらいの時間を使ってもらえば結構だから」といって下さったことを忘れません。いい巡り合わせがあったと思っています。その言葉に甘え、いろいろなところに調査に行くことができました。サハラ砂漠やタクラマカン砂漠、オーストラリアやアメリカの多くの乾燥地などでしょうか。

その後、23年前に宇大に助教授で転職してからは、研究内容をガラリと変え、タイを中心に熱帯林の伐採が周辺環境に及ぼす影響を調べるようになりました。先日パスポートのスタンプを調べてみたら、タイには70回くらい行っています。

なぜ宇大に移ってきたのですか？

農学系の大学教員になったときから、最後は、故郷の風土に近く、伝統のある宇都宮大学の農学部で教員生活を送りたいと思っていたので「宇大（の教員ポスト）が空いているぞ」という話が恩師からあった時、すぐに手を挙げました。赴任してから、直ぐに、大学のそばに家を建て、本籍も移し、今は完全に宇都宮の人間です。



山田竜之介 農学部3年

自分が学生のときと今の学生との大きな違いはありますか？

語弊があるかもしれないけれど、私の周りにいた友人達も含め、夢を追い続けたいと思う気持ちが強かったかな。夢を抱くことができないような社会環境に変わってしまったからなのかも知れませんが、一番違うのはそこかもしれませんね。今、宇都宮大学では宇大スピリッツとして、「3C精神（Challenge：挑戦、Change：自らを変え、Contribution：社会に貢献する）」を掲げています。学生の皆さんにも、大きな夢に向かって主体的にチャレンジし、自らを変え、世の中に貢献する、そういう部分をどこかに持ち続けて欲しいと思います。

世の中への貢献と言えば、宇都宮大学は地域貢献度も高く、地域との関係が近い大学です。宇都宮大学は、「地域の知の拠点」として、地域にとつて最善の課題解決の提案ができるような大学になりたいと思っています。そのためには、新しい知を創造する研究が不可欠なのは当然で、地域の課題に寄り添って研究を進める教員も少なくありませんし、思わぬ基礎研究が地域課題に



小林直貴 教育学部3年

つながる場合もあるでしょう。そうした新しい知の創造活動を垣間見られるのが、高校までにはない大学で学ぶ面白さです。

教育にあつては、机の前で学ぶだけではなく、地域のなかに入っていく、現実の場面で自分たちの知識を活かしていく、足りないところはまた机に戻って学んでいく、そうした中で宇大では「行動的知性」と呼んでいるものを身につけてほしい。そして、大学で学んだことを地域のなかで生かしていくような学生を一人でも増やしていきたいですね。栃木という地域で身につけたこうした姿勢は、日本、あるいは世界のどの地域に行っても生きるはず

です。こうした教育や研究をベースに日本で一番地域に愛され、信頼される大学にしていきたいですね。来年度からは新しく文理融合の「地域デザイン科学部」を新設し、今までの学部と合わせて、さらに地域への貢献を強化する予定です。これについては別の機会にゆつくりお話ししますが、宇大自身も3C精神で夢に向かって進んでいるのです。地域といえば、地域のまちづくりなどに挑戦している学生も多いです。大





菲澤琴音 国際学部2年

学側からの支援のおかげで積極的に地域での活動に参加でき、すごくいいなって思っています。

まちづくりとか、ボランティア的なところが、学生のみならず大学の外に積極的に出て行き、積極的に活動しているのがすごく目立つようになってきましたね。そうした姿勢こそ私がおもったも育てたい「行動的知性」養成へのステップだし、すごくうれしい。大学として積極的に支援していることが評価してもらえているのもうれしいです。こうしたことも含め、日本で一番、学生のことを大切に思う大学でありたいですね。



小林未来 教育学部2年

育を重視した大学でありたいということです。学生を大切にしていきたいという思いの原点が、そこにあります。

それともう一つ、これは宇大の特徴だけれど、学生と教職員の間の距離が近く、顔の見える距離感で皆さんと教職員が接することができること。これが大規模大学にはない良さであり、教職員の方々には学生にきめ細かな指導や支援ができます。先程の地域の活動だけではなく、通常の授業の中でも「アクティブラーニング」が効果的に実施できるわけです。今までも学生目線を中心にしているのと進めてきたけれど、これからも学生の皆さんと一緒に、よりよい教育に向けてチャレンジし続ける大学でありたいですね。

最後に、新入生に向けてメッセージをお願いします。

先程も言いましたが、夢を失わないでほしいということです。若い頃にとっても印象深い話を読みました。葬儀がフランスの国葬となったほどの大女優、サラ・ベルナール（1844～1923）が晩年、ある俳優の卵から、俳優として成功するために一番大切なものを聞かれたときの言葉です。正確には



石田先生インタビューごぼれ話??

インタビュー本編でご紹介した内容以外にも、学生がいろいろぶっちゃけた？質問を石田先生にぶつけてみました。その一部をここに大公開！脱線することも多かったけど、何でも気軽に答えてくれる石田先生に、学生たちも大感激！石田先生、お忙しいところ本当にありがとうございました。

- Q ご家族は？
- A 今は妻と二人みたいなものかな。それから可愛いパピヨンという種類の犬が一匹。一年前に一匹死んでしまって、とても悲しかったね。
- Q 奥様との出会いは？
- A それは……（恥ずかしいからオフレコでお願いしますとのことでした。残念！）
- Q お忙しいと思いますが、リフレッシュの方法は？
- A 仕事は家に持ち込まず、家では奥さんと愛犬に孝行することが、今は一番のリフレッシュかな？ 大好きな旅に行きにくいので、週末のロングドライブがその代わり。
- Q 先生のファッションセンス最高です！あまりにも学長先生がかっこいいんで感動しました！
- A（少し照れながら）最近公式な場面多いんでこんな格好だけど、高く評価していたら……（汗）家ではヴィンテージではない、単に古臭いジーンズ姿だけだね。
- Q これからも多忙な日々が続くと思いますが、時間が取ればやってみたいことはありますか？
- A ずいぶん海外には行ったけど、まだ行ってないところがたくさんあるからそういったところに行ってみよう。ギアナ高地のエンジェルフォール、ウユニ塩湖、南米最南端のパタゴニア。元気なうちに行ってみようね。そして、いろんな人と話してみたい。ま、当然無理かな（笑）



岩田奈緒子 教育学部2年

記憶していませんが、「私の周りに素質に溢れた人はたくさん居たが、成功した人は必ずしも多くない。何が違うのか。何十倍もの熱心さが必要なのは当然です。しかしそれだけでは足りません。最も必要なもの、それは大いなる

野望です」というものです。野望は大志あるいは夢と言ってもいいでしょう。これを私流に言えば「満ちたりた人生を送るために、日常に流されるのではなく、いつも大きな夢を忘れず、その夢を活力とし、熱意をもって生きていく」ということです。現代は、さまざまな意味で大きな渾沌の中にあり、非常に夢を描きにくい時代なのかもしれません。だからこそ、敢えて「大きな夢をもってほしい」と言いたい。大いなる夢を持ち続け、渾沌の中に迷うことなく前向きに歩んで欲しいと思います。

（2015年2月取材/撮影）

最後に残るのは

人と人との関わりです

「学長在任期間を振り返って」

進村武男 前学長



大粒完熟イチゴ用新型容器（フレッシュル®）を手に。農工連携による新技術で宇大発ベンチャー企業が製品化しました。

この6年間を振り返ってみていかがでしょうか

時代のニーズとはいえ、今までにない大胆な大学改革が求められた大変な期間でした。

教育改革は、学長就任直後から担当理事とともに積極的に取り組んできました。教育の質保障に向けた取り組みや基盤教育改革など様々なプロジェクトが成果を生みました。その中でも特に基盤教育における英語教育改革「EPU」は、実践的で効果的なプログラムが高く評価され、大学英語教育学会の実践賞を受賞しました。学生のための実践的な教育が高く評価されたことが何よりもうれしいです。

研究分野においても、オプティクス教育研究センターにおいて世界最高水準の研究拠点が形成されつつあります。谷田貝豊彦教授は国際光工学会

の会長に就任されています（アジアで初）。他にも、農林水産大臣賞を受賞された夏秋知英教授の「植物ウイルス病ワクチン」の研究、米国の科学賞「リサーチフロンティアワード」を受賞された米山弘一教授の「植物ホルモン」の研究など、世界的に高く評価されている研究成果が生まれました。

また、学長就任当初から、異分野の連携強化、学部間連携を進めるべく取り組んできましたが、現在農学部と工学部の連携により、超高品質イチゴのブランド化を目指した研究プロジェクトが進行しています。学部間の連携がようやく実ってきたと感じています。イチゴ（スカイベリー）に関わる先進的な取り組みは、異分野融合、学部間連携の象徴です。

地域連携分野においても、「地（知）の拠点整備事業（大学COO事業）」の採択が認められたことは、本学のこれまでの地域に根ざした教育研究活動が認められたものであると考えています。この大学COO事業を含め、栃木県との連携を強力に進めるため県の優秀な職員の方をスタッフとしてお迎えすることができました。人的な部分で県から強力なサポートが得られたことは、今後の更なる連携強化に向けた足場作りができたものと自負しています。

改めてこれまでを振り返ってみますと、各分野における様々な成果が開

きつつある感じで、語るに語りつくせませんが、教職員の皆様の頑張りには改めて深く感謝したい気持ちです。特に各分野の事業の取りまとめにあたっていただいた各理事の方々にはさぞご苦労が多かったのではないかと察します。理事の先生方のチームワークも素晴らしい、役員間で改革への意欲、意識は十分に共有されており、そのこともあり、この6年間は積極的な「攻め」の大学経営をさせていただけただけではないかと感じています。改めて、6年間は長いようで短かったような気もします。うーん、やっぱり長かったかな（笑）。

退任後のことは何も決めていません。任期の3月31日までは学長としての任務を全うしたいと考えています。退任後には時間もできるでしょうが、今は考えている余裕はないです。このような性分でこれまで仕事中心の生活だったので、妻にはたいそう苦労をかけたのではないかと思っています。

今後の宇都宮大学に期待するところがありますか？

大学改革のプロセスの中で生まれたのが「3C（Challenge・Change・Contribution）精神」です。主体的に挑戦し、自らを変え、社会に貢献する、この精神で改革を進めていこうということです。引き続き、この3C精神にのっとり、一層地域でキラリと光る大学になってくれればうれしいですね。

また、本学には素晴らしいシーズになり得る多くの「宝」がまだまだ眠っています。それらの「宝」は単独でも素晴らしいものですが、別の「宝」と組み合わせることで、我々が予想もつけない成果や新たな価値をつくり出せることがあります。新たなイノベーションの展開に向けて、異分野融合、学部間連携をさらに進めていってほしいですね。宇都宮大学の真の力はこれからさらに発揮されるものと固く信じています。

退任後のご予定は？

私自身の経験ですが、研究をしていると失敗や成功に関係なく最後に残ることは、「人と人とのより良い関わり」が残るということです。人と人とのより良い関わりが次の大きなステップの「礎」になります。このことを学生に伝えたいと思っています。

進村先生、6年の長きにわたる学長の重職を務められ本当にお疲れ様でした。引き続き宇都宮大学を見守っていただき、温かいアドバイスを頂戴できればと思います。

（2015年3月取材/撮影）

「宇大」によろこそ! 宇大生は今!

Special ver.

●受験お疲れ様! 新たにたくさん経験を積んで宇大で学生生活を満喫しよう! 農学部 4年 鬼塚 希美子

●新しい出会い、新しい気付きをたくさんして後悔のない素敵な学生生活を! 教育学部 4年 築田 恵

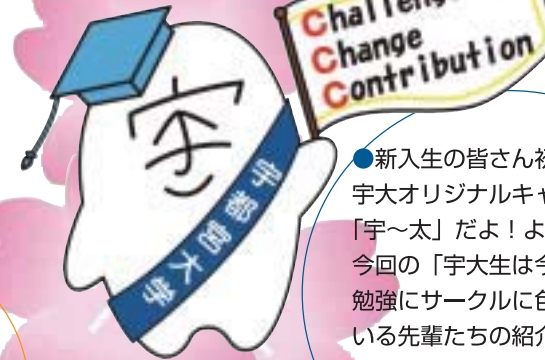
●宇大へようこそ! たくさんの貴重な経験がみんなを待ってるよ♡一緒に宇大を盛りあげよう! 教育学部 4年 手塚 祐奈

●宇大でみなさんのまだ自分も出会ったことのない自分が見つかりますように! 工学部 3年 松山 大介

●自分が主体となる貴重な4年間。様々なことを経験して自分を成長させよう! 教育学部 2年 岩田 奈緒子

●4年間はあっという間! 1秒たりとも無駄にしないように全力で学んで遊べ!! 農学部 3年 山田 竜之介

新入生、皆さん
入学おめでとうございます!



●新入生の皆さん初めまして! 宇大オリジナルキャラクター「宇~太」だよ! よろしくね! 今回の「宇大生は今!」では、勉強にサークルに色々頑張っている先輩たちの紹介にプラスして、特別にみんなの先輩から新入生の皆さんへのおめでとうメッセージも紹介するよ!

●受験お疲れさまでした。宇大でともに学び、ときには失敗し、成長していきましょう! 教育学部 2年 小林 未来

●宇大が第一志望だった人も違う人も、楽しみ方は自分次第! 爽り多い大学生活にしよう! 国際学部 2年 藤澤 琴音

●大学は何事にも挑戦あるのみ! みんなで爽りある4年間にしよう! 教育学部 3年 小林 直貴



UU-PRAS

プロ棋士や漫画家を目指す宇大生、サークル活動、一人暮らしのレシピ、バイトの体験談、おしゃれな学生のスナップ写真……宇大生の今を伝えるフリーペーパー「うーたす!」の取材・編集を担当しているのが企画広報課学生スタッフ「UU-PRAS」(ユーユープラス / Utsunomiya University Public Relations Active Staffの略称)です。

UU-PRASの活動は、学生参画による大学の広報活動チームのプロジェクトとしてスタートしました。オープンキャンパスのチラシ・プログラムの制作協力や運営補助、広報誌UUnowの取材、U-tunesの動画コンテンツ制作への協力、オリジナルキャラクター選考の運営協力、公式ホームページパンナー作成など、幅広い活動を展開しています。「うーたす!」は、UU-PRASメンバーによる企画提案で2014年度に創刊。4月の新学期号、オープンキャンパスに

合わせた夏号、そして学祭に向けた秋号の年3回発行されます。基本的にはキャンパス内で配布されていますが、駅や観光案内所など学外への配布も検討されています。

次号の発行に向けて編集会議中のメンバーに話を聞くと、「インターネットを通して宇大の学生だけではなくて遠くに住む、面識のない人にも『うーたす』を読んでもらえるようになったらおもしろそう」「宇大に本気でプロの棋士や漫画家を目指している学生がいることを知らない人も多いはず。頑張っている学生をみんなに知ってもらいたい」——そんな答えが返ってきます。

代表の松山大介さん(工学部3年)は「いろんなことにアクティブに活動をしている宇大生がたくさんいるのに、あまり知られていない。なぜかという、学生が学生に伝える手段がなかったからだと思います。『うーたす』が気軽に利用してもらえる媒体になれば、大学のみんなのつながりをもっと活発になるんじゃないのかな」と話します。

Mail:uu_pras@yahoo.co.jp
Twitter:@uu_pras
Website:http://uu_pras.tumblr.com/



「夏のオープンキャンパス2014」パンフレットで使用する写真を撮影中



ワークショップ(本学サークル「ライト」主催)で「異なる文化・生活習慣を持つ人たちがどのようにすれば気持ちよく一緒に過ごせるか」について意見交換

ハラール研究会

「ハラール」とは、イスラム法で「許されたもの」を意味するアラビア語です。ハラール研究会は、ムスリム(イスラム教徒)の留学生たちが中心になって、「ハラール食」への理解など、ムスリムが暮らしやすい環境をつくるための活動を行っています。

ムスリムの環境を改善する活動は陽東キャンパスの学食でのハラール食提供に止まらず、学外へと広がっています。友松名誉教授とともに取り組んでいるのが、ムスリムを観光地に呼び込み、地域振興を図るプロジェクトです。

うになりましてので、宇大の学生ともいるいるデイスカッションするようになりまして。ムスリムのことが少しずつわかってもらえるようになってきていますと感じています」と話しています。



ワークショップ終了後の交流イベントで、ハラール食による焼きそばパーティーを開催



本学「UUプラザ」で行われたハラール研究会のミーティングに参加したメンバーたち

2月に峰キャンパスのラーニング・コモンズで開かれた本学サークル「ライト」主催のワークショップ「ハラール研究会と考える食のこと」にハラール研究会のメンバーが参加。「イスラム教徒の留学生の一日」を紹介し、「異なる文化や生活習慣を持つ人たちが、気持ちよく一緒に過ごせるようにするためにどうしたらいいか」について、日本人学生たちと意見交換しました。ワークショップ終了後の交流イベントでは、ハラール食による焼きそばパーティーが開かれました。

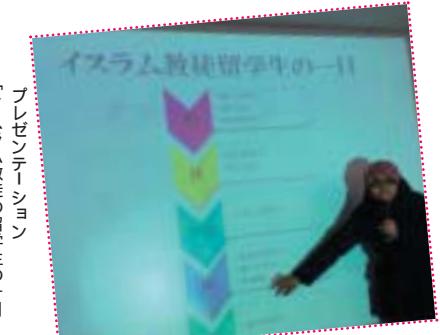
現在、那須をターゲットに国際観光地化による地域振興のプロジェクトが計画されています。マレーシアとインドネシアを対象に子ども連れの家族客を呼び込むことを目的に、ハラール対応のピクトグラムの開発や観光・生活資源の英文マップの作成などが予定されています。



観光振興対策としてイスラム圏の誘客に一役



温泉に手を入れてみるハラール研究会の学生たち(写真)。日光市観光協会(鬼怒川・川治支部)で地域の観光業の実情について説明を受ける(写真)。ホテルの実情について説明を受ける(写真)。ホテルのハラール食を試食する(写真)。



「イスラム教徒の留学生の一日」プレゼンテーション



ハラール研究会のメンバーは日本人を含めて約20人。マレーシアから来たムスリムの留学生は「宇大にはお祈りする場所が設けられていますし、日本人の友だちはムスリムのことを理解してくれるので、すごくありがたい」と話します。ただ、豚由来の食品、化粧品などは許されず、また、地域や観光地にお祈りする場所が少ないことから生活していくための苦労は少なくないといわれています。

友松名誉教授は「ハラールを理解することは、世界の観光客に対応できる能力を身につけることにもつながると思う。ムスリムの留学生の協力を得て、ムスリムの視点で観光地を評価し、誘客策を考えていきたい。日本人との意思疎通を図るときにも留学生たちが力になります」と話します。





宇都宮大学国際学部卒業式にて、恩師中村祐司教授を囲んで、ゼミ生たちと佐々木さん（2012年3月/前列右）

「いつも『足を使え』と言っておられました。『インターネットから情報を得るだけではなく、自分の足で訪ねて行って自分の目で見たり聞いたりすることが重要。自分で得てきた情報は忘れないう身につく』ということを教えてくださいました。今で

「修了後数か月、一緒に留学した友人とアメリカ旅行をしました。旅行の計画をはじめ、行先もバスやホテルの手配も、全部自分たちで決めて、本当に楽しかった。留学は私にとってかけがえのない経験でした」

「帰国してから中村祐司教授のゼミで『行政学』を専攻。海外留学でグローバルな世界を体験したが、その上で改めて日本について、また自分の住んでいる街について考えるようになった。『地域ってなんだろう？地域にとって大事なことって何だろう？と、自分の身近な地域について改めて考えるようになりました』



ヤマト運輸の「東日本大震災の記録」を手にする佐々木さん



物流の最前線で奮闘中です！ —グローバルな物流を目指して—

OB. OG. INTERVIEW

ヤマト運輸株式会社
宮城主管支店

Mari SASAKI
佐々木 真美

宮城県仙台市泉区を通る国道から、「ヤマト運輸」の巨大な看板が目に入る。広々とした社屋の前に居並ぶ大型トラックの群れは圧巻である。取材陣を出迎えたのは、同県出身の本学卒業生、国際学部在学中にノーザン・プリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）留学を経験、2012年4月にヤマト運輸株式会社に入社した佐々木真美さん。社会人3年目の彼女の落ち着いた立ち振る舞いの中にも緊張感ある初々しさが印象的であった。



も先生のこの言葉を仕事の基本にしています。恩師中村教授は「夕方、大学のグラウンドをジョギングしていた時、ずっとやってきて、ごく自然に寄り添って一緒に走ってくれたことがあった。彼女には思いやり、優しさ、行動力、そして笑顔が常に溢れている」と、佐々木さんのエピソードを印象深く語る。

地元に対する思い
在学中は地元に戻ることにして、それほどのこだわりはなかったと話す。しかし、「東日本大震災」が佐々木さんの考えを大きく変えた。

「被災者の方が『生きるため』に必要な物資を届けるという使命でトラックを走らせていたそうです。私はこの写真が衝撃的でした。現在の上司たちの話が掲載されていますが、こんなにもみんな頑張っていたんだと感動しました」

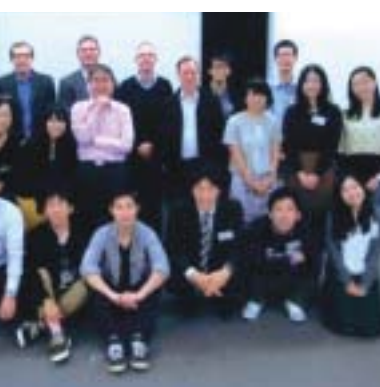
「被災者の方が『生きるため』に必要な物資を届けるという使命でトラックを走らせていたそうです。私はこの写真が衝撃的でした。現在の上司たちの話が掲載されていますが、こんなにもみんな頑張っていたんだと感動しました」

さまざまな国の文化に出会う
もともと佐々木さんが国際学部を目指したのは海外留学という目標があったからだが、入学後陸上部に入部し部活に明け暮れる日々の中、次第に留学

「まさに宅急便の現場の最前線で、日々大量の業務に忙殺されていました。様々なことが現場では発生し、お客さまにご迷惑をお掛けしてしまうこともあり、お叱りを受けくじけそうになったこともありました。しかし、センターでの業務はヤマト運輸の仕事の原点であり、業務を通して現場の実情を知りえたことは今の業務を進めるにあたりとても貴重な財産となっています」

「もともと貿易に興味があり、船で物資を輸送する海運会社に憧れていました。が、実際に就職活動として企業研究を進める中で、ヤマト運輸という企業が非常に魅力的に思えてきました。国内の物流を基幹業務に据えつつ、グローバル化に対応した展開が進められている点が私の企業選びにあたっての志向と一致する感じでした」と、入社動機を笑顔で話す佐々木真美さん。入社して1、2年目はジョブローテーションとして地元の営業所（センター）に配属となった。

「最後に、これから入学する宇大生に次のようなメッセージをいただきたい。『私が学んだ国際学部は、語学のみならずさまざまな諸外国の制度、文化について幅広く学ぶことができ、先生や学生もアクティブでとても刺激的なところなんです。学生生活を満喫するともに、自分のやりたい目標に向けて将来大きく羽ばたいてほしいです』」



ヤマト運輸（株）のグローバル人材育成のための研究会「グローバル・イングリッシュ・カレッジ」に参加（2014年/前列右端が佐々木さん）

「何となく過こせればいいかなという気持ちになっていました。しかし、部活で怪我をした選手が、もう一度立ち直ってスタート地点に立つて走っていく姿を見て、自分は何のために大学に入ったのか、やらなければならぬことは何だったのか、と本来の目的を思い返したのです。改めてスタート地点に返って留学を目指すことにしました」

「3年生になって念願のノーザン・プリティッシュ・コロンビア大学へ留学。ヨーロッパやアジアからの留学生と共に暮らした寮生活を懐かしく振り返る。『想像していたよりも大変なことがたくさんありましたが、それ以上に得たものが多かったと思っています。一国の文化を体験しただけではなくさまざまな国の文化に出会うことができました。生活習慣などの違いで戸惑うこともありましたが、異なる文化のおもしろさに惹かれることが多かったんです』



ノーザン・プリティッシュ・コロンビア大学の「日本語クラス」の学生と、サポーターとして参加した日本人留学生たちと（前列左から2番目が佐々木さん。手前が宇大から一緒に留学し、同じくヤマトグループに入社した友人藤田菜美さん）

農学部 農業経済学科 児玉研究室

Welcome to 研究室ゼミ

学生から

小山市で試験的に行われている「ふゆみずたんぼ」の調査、研究をしています。冬から春にかけて田んぼに水を張り、農業に頼らない、環境にも生態系にもやさしい先進的な環境保全型の農業で、「ふゆみずたんぼ米」のブランド化を図り、多様な生物を呼び込もうという目的もあります。どうすればうまくいくのか、卒論のテーマとしてより深く研究を進めていきたいと思っています。

農業経済学科3年 稲富優太

食品添加物や加工食品への危険性を指摘している、いわゆる「食品安全本」というものが出版される背景や役割などについて、消費者、出版社、書店の3つの視点から研究しています。児玉先生は、ふだんはとても面白い方ですが、いざという時は厳しく指導してくれます。統計解析に詳しく、良いデータをとるための手法をアドバイスしていただきました。

同4年 丸山千尋

地元の伝統工芸品「鹿沼簍」の研究をしています。鹿沼簍は、作り手の職人さんも、材料となる簍草の栽培農家も激減し、伝統が途絶えてしまう危機的状況にあります。ゼミ以外にサークルでも鹿沼簍に関わっていますが、伝統工芸の良さを市民の方に知ってもらえるよう、簍草栽培や簍製作の体験会などを地域の人たちと連携して開催し、伝統工芸の継承、地域振興につなげていければと考えています。

同4年 津久井良明



教員から

私自身、幅広い研究をしていますので、学生にも自由に幅広いテーマで研究してもらっています。

稲富君の研究は、コウノトリやトキを呼び込もうという地域の願いがあって、そのためには生育環境を整備しないとけないということで試験的に進められている「ふゆみずたんぼ」という環境保全型の農法を調べています。丸山さんの「食品安全本」の研究は、企業側はおそらく自分たちにメリットになる情報しか出さないということで、デメリットについてきちんと調べなければいけない、という部分があります。津久井君の「鹿沼簍」は、人知れず消えてしまっているものや、何らかの貢献をしていくという研究です。

基本的には、世の中で当たり前のことというのはそんなに調べる必要はなくて、普通に生活してはわからないようなことを大学というところでは研究しないといけないということで、学生たちは頑張ってくれています。

農業経済という学問は「経済」という語感から、強いものが正しいというような考え方にとらわれがちですが、そういうことはまったくなくて、経済弱者に対してもアプローチしていくのが農業経済学のいいところなのです。「鹿沼簍」という伝統工芸品が消えてしまわないよう何とかするシステムを考える、そういうところにアプローチしていくのが農業経済学の特徴なのかもしれません。

普通のことを普通にやるのはお行儀がよくいいのですが、それでは到達できないところがあって、たぶん、そういうところを勉強できるのが大学だと思います。社会に出ると難しくなります。誰彼に気をつかうことなく、自分の目を見て、自分で判断して、自由に、かつ深く、マニアックに研究できるのが大学のいいところなのです。



児玉剛史 准教授

研究室概要

本研究室では経済学、統計解析の手法を基礎として、食糧・農業・農村にかかわる様々な事象を分析し、明らかにしていく研究を行っています。研究の対象は個人で決定するため多岐にわたり、特定地域のもの、日本の国土を評価するものまであります。研究で求められるものは創造力と説得力で、現場に貢献できる人材育成を目指しています。

授業概要

本講義では、法学を学ぶ基礎を修得したうえで、わが国の司法制度を概観します。また、憲法学、民法学および刑法学について、基本的な考え方を学ぶとともに、各法分野における論点を取り上げ、さまざまな角度から検討します。受講生には、講義を通じて、これからの社会や国の在り方を主体的に考えることができる能力を身につけてほしいと思います。

学生から



六法の見方もよくわからないところから始めましたが、授業はとてもわかりやすく、裁判員制度の是非を考える授業が印象的でした。法律は生きていくうえで何かしら関わりがあるものです。法律を学ぶことは、何かあったときに自分の身を守ることもつながると思います。

総合人間形成課程2年 阿久津由加里

授業を受ける前は、単純に罪を犯した人は厳しく罰すべきと思っていましたが、被疑者・被告人にも守られるべき人権、法益があることを学び、一概に決めつけてはいけないと考えるようになりました。法律を学ぶことで、いろいろな見方、考え方ができるようになったと思います。

同2年 山本和香菜

一番興味を持ったのは裁判員裁判で、実際に傍聴もしました。新しくできた制度で、これからどのように運用されていくのかが関心があります。法律は自分には関係ないものというイメージでしたが、身近な生活に関わるもので、決して遠くにあるものではないことがわかりました。

同2年 小林直貴

公務員志望で、将来、その仕事に就いたとき法学の知識はどうしても必要になるため、この授業を取りました。事例を多用してくださるので、とてもわかりやすい。「多数決は必ずしも正しいとは言えない。少数派の声もきちんと聞かないといけない」ということを学ぶことができました。



同2年 鱈淵雄史

教育学部 法学概論



Welcome to 授業



今回ご紹介した授業の様子が動画でもご覧いただけます。



http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u_tunes/index.html

教員から

学生には、これからの社会を、より良くしていくことができる人材になってほしいと思っています。社会をより良くする手段はいろいろあると思いますが、例えば、各自が社会で起きている出来事に関心を持ち、それに対して「はたしてこのままでいいのだろうか」「いや、このように変えなければいけない」などと真剣に考えて、選挙でその意思を表明していくことも、ひとつの手段だと思います。

そのときに、国の仕組みや法制度が分かっているか、社会で起きている事象のどこに問題があるのかを正しく理解することができません。国のかたち、社会の在り方を考える基礎として法学を学ぶのです。

例えば、裁判員制度が導入され、刑事司法の在り方が大きく変わりました。この新制度が、はたして私たち国民にとって良い制度なのか悪い制度なのか、一方で被告人にとって、あるいは犯罪被害者にとってはどうか、さまざまな視点から考えてほしいと思います。そして、「絶対的な正解」がない問題に対して、何が正しいのかを考え、その自分の意見を論理的に主張できる能力を身につけてほしいと思います。

社会の出来事に無関心な社会人にはなってほしくない。これからの社会の在り方を自分の頭で主体的に考えるために法学を学び、法的な思考方法を身につける。法学を一般教養として学ぶ意義は、そこにあると思います。

黒川亨子 講師



研究 Keyword

超伝導ナノデバイス開発

超伝導とナノテクノロジーで拓く未来

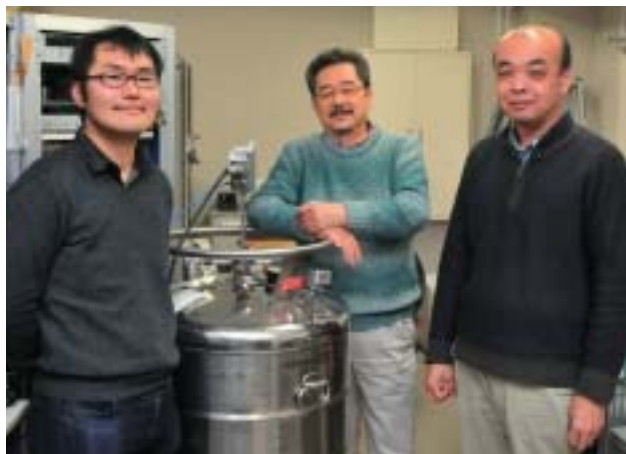
工学部電気電子工学科「超伝導デバイス研究グループ」
入江晃巨教授・北村通英教授・八巻和宏助教

超伝導とは

超伝導は極低温で電気抵抗がゼロになる現象で、1911年にオランダで発見されました。超伝導体は資源の乏しい我が国においてエネルギー問題を解決するかもしれない夢の材料の一つです。現在超伝導体は、磁気共鳴画像診断装置(MRI)などの医療装置やリニアモーターカーにおける磁場の発生に利用されていて、また、超高度度のセンサーが必要な電波天文学や脳科学など最先端の分野でも活躍しています。

超伝導の実用化に向けて

このように21世紀のエネルギー問題・環境問題を解決する「夢」の材料として期待されている超伝導体ですが、超伝導状態になるためには極低温(-269 程度)を必要とすることが実用化に向け解決しなければならぬ課題でした。研究の進展により実用的な温度 液体窒素温度(-196 程度)で動作が可能な超伝導体(高温超伝導体、Bi-Sr-Ca-Cu-O、図1)が発見され、私たちの研究室ではこの高温超伝導体を研究の中心に据え、基礎的な研究と



工学部電気電子工学科 超伝導デバイス研究グループ

して高温超伝導体の物性・電気特性の解明や、応用として、ナノテクノロジーを活用した新機能超伝導デバイス(超伝導ナノデバイス)の開発を行っています。(図2)

夢のデバイス開発

現在、私たちが研究を進めている超伝導デバイスは、テラヘルツ帯の電磁波発振素子や超伝導量子干渉計(SQUID)です。テラヘルツ帯電磁波発振素子は高速のテラヘルツ通信への応用が期待できます。テラヘルツ帯での通信技術は現在のWi-Fi(無線LAN)の数十倍の通信速度を実現する可能性を秘めた非常に有望な技術です。またSQUIDは医療分野での活用や産業界での非破壊検査などでの活躍が期待できます。これらのデバイスは従前の半導

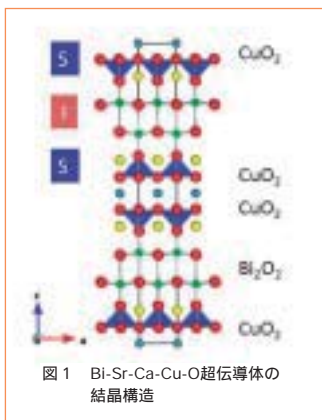


図1 Bi-Sr-Ca-Cu-O超伝導体の結晶構造

体(シリコン等)を利用したデバイスでは実現不可能な高いポテンシャルを秘めています。またデバイスの開発にはマイクロ(10⁶)メートルからナノ(10⁻⁹)メートルの非常に小さなサイズの精度で素子を加工する必要があるため、ナノテクノロジーによる微細加工技術が非常に重要です。

将来に向けて

私たちの研究グループでは、このように超伝導とナノテクノロジーを組み合わせることによって究極的な性能を持ったデバイスの開発を目指しています。高度情報化社会が今後ますます進展するにつれ、特に社会インフラの基幹部分で究極的な性能をもつデバイスが必要とされる場面も増えていくことが予想されます。こういった社会的要請に応えるべく、次世代デバイスの開発に向け、研究を進めてまいります。



図2 Bi-Sr-Ca-Cu-O超伝導体を用いた (a)テラヘルツ帯電磁波発振素子と(b)検出素子

研究室訪問

超伝導デバイス研究グループ



PROFILE 入江晃巨教授

長岡技術科学大学大学院環境工学専攻博士課程修了。1992年宇都宮大学工学部電気電子工学科助手、助教、准教授を経て2009年より同教授。主に超伝導材料エレクトロニクスに関する研究に従事。博士(工学)

超伝導は私たちの生活にどう関わってくるのですか？

入江 超伝導体は低温が必要なため使われる場が限られてしまうというのが現状です。ふだん生活していて目に見えるような表の場ではなく、裏方と言いますが、非常に性能が要求される分

宇大が目指す超伝導研究とは

八巻 超伝導体は産業的なインパクトが非常に大きい材料ということで、世界中で開発競争が進んでいる材料です。その中で、宇都宮大学の研究グループはビスマス系(Bi-Sr-Ca-Cu-O)高温超伝導体を主として研究しています。名誉教授の大矢銀一郎先生と入江先生を中心に、この材料がジョセフソン効果と呼ばれる量子現象を発現する「固有ジョセフソン接合」(注)であることを世界で初めて発見しました。そういうことを踏まえて、私たちのグループは一貫して、この日本発の材料を用いて何かおもしろいデバイスをつくれないうかが、ということの研究を続けています。



PROFILE 北村通英教授

筑波大学大学院博士課程物理学専攻修了。1983年宇都宮大学工学部共通講座応用物理学講座助手、助教、准教授を経て2009年より同教授。主に非金属系の電子状態の研究に従事。理学博士

野で使われていると言ったほうがいかもれません。エンドユーザーのところまではなかなか出てこなくて、ハイユーザー、企業体とか、そういったところで必要になってくるものだと思います。

単純な科学としては、今、国際宇宙ステーションに地球のオゾン層などを観測する超伝導を使ったセンサーが搭載されています。電波天文学の分野では、例えば宇宙起源の研究などに必要な宇宙の情報、天体から届く電磁波を分析することで得られますが、その電磁波は超伝導を使ったデバイスで検出しています。そういう科学分野を開拓していくようなところで超伝導は使われています。将来性のある分野、夢のある分野だと思います。

北村先生は、グループの中でどんな役割を担っているのですか？

北村 入江先生と八巻先生が進められている実験やデバイス開発で得られるデータの解析を担当しています。もともと理論が専門で、学生の時に少しだけ超伝導の理論を勉強して以来、しば



PROFILE 八巻和宏助教

筑波大学大学院数理物質科学研究科博士後期課程(物性・分子工学専攻)修了。東京理科大学工学部嘱託助教を経て2011年より宇都宮大学大学院工学研究科助教。主に超伝導材料の結晶成長、高周波応用に従事。博士(工学)

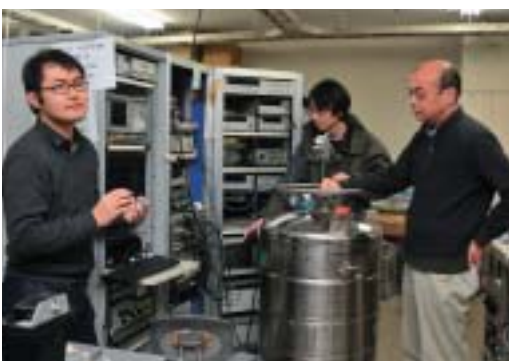
若い人たちに超伝導研究の魅力を伝えるとしたら

北村 何と言っても読んで字のごとく「超」伝導(すなわち、電気抵抗がゼロ)という極めて「非日常的」な現象が巨視的スケールで発現するところですね。私は理論から入ったので、この「超」物理現象を説明する理論の存在を知ったときには「超」感動しましたね。今は、電子スピンと超伝導体の相互作用のようなものに関心があります。

超伝導のおもしろさとは

早く超伝導から離れていたので、宇大に来て、超伝導の研究グループに足を踏み込んで10年くらい経ちます。

入江 私や八巻先生は実験のほうからのアプローチ、北村先生は理論のほうからのアプローチということで、私たちの実験結果を北村先生に理論的に説明していただくということもありますし、逆に北村先生のほうからの提案もありません。そういうやりとりがうまくできるのが、いい部分だと思いますね。



研究室で話す入江教授(右)と八巻助教(左)中央は村上一真卒業研究生

*注「ジョセフソン接合」
2つの超伝導体は非常に薄い絶縁膜を介して結合しているとき超伝導電子は絶縁膜を透過できます。これは量子力学的な現象でトンネル効果と呼ばれます。超伝導体の場合、電子がペアを作り2個が1組となつて透過することから、通常のトンネル効果と区別してジョセフソン効果と呼びます。また、この様な接合体をジョセフソン接合と言います。
「固有ジョセフソン接合」とは高温超伝導体では原子レベルでジョセフソン接合が形成されていること。

八巻 量子力学という言葉は、高校生でも聞いたことがあると思います。小さなナノスケールの材料がどういふふうになる舞うか、原子がどういふふうになる舞うか、ということを研究することで発達した学問ですが、超伝導現象というのは、それがマクロのスケールで、私たちが日常目にする材料のレベルで量子力学的な現象が表れてくる、非常におもしろい物理現象です。
そういうことに興味・関心が強い高校生とか、やる気のある学生さんが一緒に勉強してくれたらうれしいですね。

夏のオープンキャンパス2015

今年も宇大はオープンキャンパスを開催します！
宇都宮大学ってどんなところ？どんな先生がどんな授業や研究をしているの？入学するには？就職は？パンフレットだけではわからない、いろんなことがわかります。「夏のオープンキャンパス2015」に参加して、ぜひとも宇大の魅力を肌で感じてください。

日時：7月20日（月・祝） 9：30開始
会場：峰キャンパス（国際学部、教育学部、農学部）
陽東キャンパス（工学部）

学部ごとの企画内容例
・学部での教育や研究内容の紹介
・先生・先輩への質問・相談コーナー
・模擬授業、体験実習、研究室・施設設備の公開
などなど、さまざまな企画で皆様をお待ちしております。
詳細なプログラム等、決まり次第本学公式Webサイトで順次お知らせしていきます。また、昨年度のオープンキャンパスの内容についても公開しています。

宇大 オープンキャンパス

検索

問い合わせ先：企画広報課広報係
TEL：028-649-8649



U-tunesは、授業風景、研究成果、学生の活躍などをムービーでご紹介する宇都宮大学の動画サイトです。宇大をもっと知るためのコンテンツ満載です。ぜひご覧ください。「宇～太」のお披露目式の動画もあるよ！



http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u_tunes/index.html

附属小学校初等教育公開研究発表会

研究主題 「学びを強さに」
研究副主題 「知的柔軟性を生かし、自己を形成していく授業をつくる」

6月2日（火）生活科、道徳、外国語活動、総合の時間、特別活動の文部科学省教科調査官3名によるシンポジウム（赤堀博行先生、直山木綿子先生、田村学先生）
4日（木）国語、社会、図画工作、体育 上記の教科のワークショップ
5日（金）算数、理科、音楽、家庭科 上記の教科のワークショップ

場所：教育学部附属小学校
問い合わせ先：宇都宮大学教育学部附属小学校
TEL：028-621-2291
URL：<http://ks001.kj.utsunomiya-u.ac.jp/fsight/elementaryschool/index.php>

運動会（教育学部附属特別支援学校）

日時：6月13日（土）9：20～14：20 雨天順延
場所：教育学部附属特別支援学校 校庭
内容：小学部児童、中学部・高等部生徒の演技など 受付でプログラムをお受け取りください。
問い合わせ先：教育学部附属特別支援学校
TEL：028-621-3871

Twitterやってます。by宇～太



twitter:@uuta_uuchara
宇都宮大学オリジナルキャラクター「宇～太」が、宇都宮大学の「いいところ」を紹介します。「宇～太」の登場予定や活動状況などもお知らせします。



フォローしてね！



本学とローソン、神明ホールディングが、「ゆうだい21」の普及のための連携協定を締結 - ローソンでの「ゆうだい21」新商品開発も進行中です！ -



本学開発の水稲オリジナル品種「ゆうだい21」の普及拡大のため、本学は米穀卸売業界最大手の神明ホールディング及びコンビニエンスストアを展開する株式会社ローソンと連携協定を締結しました。神明ホールディングは「ゆうだい21」の生産・収穫を担当し、ローソンは「ゆうだい21」の特性を生かした商品開発を行います。

平成27年度の「ゆうだい21」の生産見込みは約2,000トンで主な生産地は、栃木、茨城、三重に拡大します。平成28年度には4,000トンの収穫が見込めるよう、種子の委託生産も富山種子協会で行います。これを受けて、神明ホールディング、ローソンは『まちかど厨房』で「ゆうだい21」を使った商品を3月末から市場に投入する予定です。連携協定では教育分野・研究分野での協力も進めるとしており、地域社会に成果を還元できるよう幅広い内容について三者で協議し、連携事業を進める予定です。



本学発の「Project iChiGo」進行中！ - 日本産イチゴの世界進出を目指して -

本学工学研究科尾崎功一教授と農学部附属農場柏寄勝准教授が中心となり、高付加価値の超高品質イチゴの海外流通を目指すプロジェクト「Project iChiGo」が進行中です。このプロジェクトでは、生産から流通時のイチゴの傷みを根絶するための新型容器「フレシエル®」を開発しました。

この容器は完熟イチゴを収納できます。一般的なイチゴ容器では果肉部分が容器や、他のイチゴと接触することで傷みが進行します。そのため従来の容器の場合、熟す前の果肉の硬いものが収穫され、おいしい完熟イチゴは流通していません。この容器ではイチゴのもっとも硬い部分である果低部と、茎とでイチゴを保持し、やわらかい果肉の部分には触れずに収穫、収納できる事で、果肉の劣化を抑えます。実験で室温6

度の高湿度状態で20日間保存が可能であることがわかっています。

この性能を世界に発信するべく、来る4月にベルギーで開催される国際味覚審査機構(ITQI)に、完熟イチゴを「フレシエル®」に入れて出品する計画です。

また、同時開発中の「イチゴ収穫ロボット」と組み合わせることで収穫から出荷までイチゴへの接触がまったくない革命的な収穫システムの構築も進めています。このプロジェクト



「イチゴ収穫ロボット」

によるイチゴの収穫、流通システムを含めた日本産イチゴの超高級ブランド化の構想は学外から高く評価され、農林水産分野での新たなビジネスの取り組みを支援する「アグリプレナーグランプリ」で第1回の最優秀賞を受賞しました。また、新聞等各種メディアでもその取り組みが紹介されています。



「宇都宮大学基金」へのご協力をお願い

日頃より宇都宮大学の教育・研究・社会貢献活動に温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。宇都宮大学基金では、次の事業を行うことを目的に、寄付をお願いしております。

学生・生徒・児童等に対する支援 国際交流の支援
教育研究活動等への助成 キャンパス環境の整備・充実

右ページの振込用紙をご利用いただくほか、クレジットカードによるお手続きも可能です。詳しくは宇都宮大学基金ホームページをご覧ください。事務局までお問い合わせください。
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/kikin/>

問い合わせ先：宇都宮大学基金事務局 TEL：028-649-8177
E-mail：kikin@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



(写真) 宇都宮大学基金を利用し整備したアクティブ・ラーニングスペース

宇都宮大学峰キャンパス
【Photo: Yusaku KIHARA】



宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY



宇都宮大学
携帯サイトへGO!

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp>



宇都宮大学企画広報課
(UUプラザ)
twitter:@uukouhou

UUプラザからのお知らせや、
イベント情報、その他宇都宮
大学のさまざまな情報を提供
していきます。



UUnow 第36号

企画広報課では、皆さまの声
をお待ちしております。ご意見・
ご要望などをお寄せください。

【宛先】宇都宮大学 企画広報課

〒321-8505

栃木県宇都宮市峰町350

TEL : 028-649-8649

FAX : 028-649-5026

E-mail : plan@miya.jm.

utsunomiya-u.ac.jp

編集協力
アートセンターサカモト
栃木文化社ビオス編集室

発行責任者
藤井 佐知子
理事
企画・広報担当

取材アシスタント
(企画広報課学生スタッフ)
藤澤 琴音 国際学部2年
築田 恵 教育学部4年
手塚 祐奈 教育学部4年
小林 直貴 教育学部3年
岩田奈緒子 教育学部2年
小林 未来 教育学部2年
松山 大介 農学部3年
鬼塚希美子 農学部4年
山田龍之介 農学部3年

編集委員
湯澤 伸夫 国際学部教授
小原 伸一 教育学部教授
尾崎 功一 工学研究科教授
飯山 一平 農学部准教授
加藤 文雄 企画広報課職員
渡邊 文彦 企画広報課職員
五月女優子 企画広報課職員

企画・編集
宇都宮大学
UUnow 第36号編集委員